

多様な人材が活躍し、自然と共存する “持続可能な流域暮らし”の創造事業 ～高梁川流域圏の発展は倉敷市の発展～

高梁川流域連携中枢都市圏を形成する 7 市 3 町



満奇洞(新見市)



備中松山城(高梁市)



鬼ノ城(総社市)



倉敷美観地区(倉敷市)



いかしの舎(早島町)



旧矢掛本陣石井家
(矢掛町)



田中美術館(井原市)



国立天文台
岡山天体物理観測所
(浅口市)



つばきの丘運動公園
(里庄町)



笠岡諸島(笠岡市)



岡山県倉敷市

高梁川流域7市3町の連携について

～ 川の流れとともに未来に続く 流域に根付いた連携の歴史 ～

S29 高梁川流域連盟の創設

倉敷市の実業家 大原^{そう}総一郎氏が、高梁川を流域の運命的共有物と捉え、「ユネスコの理念を地域社会から実現する」との想いを込め、流域の官民連携組織として創設。

流域に暮らす人々の連帯意識を育み、流域全体の文化向上に向け、青少年育成・環境保全等の活動を行う。

高梁川流域連盟の取組



高等学校音楽会（S30～）



流域クリーン―斉行動（H6～）

平成

H25.10 高梁川流域連盟60周年記念サミットの開催

本サミットにおいて、幅広い分野の課題解決に向け連携をより強固にすることを「流域サミット宣言」として発表。

H27.3 高梁川流域連携中枢都市圏の形成

サミット宣言の具現化に向け、連携協約による広域連携を目指すこととし、H27年3月に、流域7市3町で連携協約を締結し、全国に先駆けて連携中枢都市圏を形成した。



連携協約締結式（H27.3.27）

R2.4 第2期高梁川流域圏成長戦略ビジョン(R2-6)スタート

SDGsの観点等を踏まえて、連携の更なる深化を図り、持続可能な圏域を目指す。

令和



自治体SDGsモデル事業の概要



2030年のあるべき姿

**多様な人材が活躍し、将来に渡って安心・快適に生活できるまち
頻発・激甚化する自然災害に対し、誰一人取り残さないまち**

これまで実施してきた圏域の
取組を踏まえ、更なる連携の
深化を図り、実現を目指す

経済面

**多様な人材の活躍，地域資源の活用
による持続可能な地域経済の構築**

【主な取組】

- 観光動態調査等による経済構造の分析，
圏域の産学官民一体となった体制整備
- 圏域におけるイノベーションの実現，
地域産業を担う人材育成・人材確保
- 圏域の地域資源を活用した経済成長の実現
- 圏域の観光振興の推進



ジュニアジーンズソムリエ 高梁川流域倉敷三斎市
(小学生向け出前講座)

((Wi-Fiが無料で使えます!))

高梁川流域フリーWi-Fi

7市町が
整備・運用

社会面

**将来に渡って安心・快適に生活
できる流域暮らしの創造**

【主な取組】

- 圏域全体の福祉の充実
- 圏域への移住定住の推進，愛着誇りの醸成
- 圏域のマネジメント能力の強化



離職防止に向けた
保育士等交流会



アレルギーフリー・
クリスマスバイキング



他市町の公共施設の
現況調査を倉敷市職員
が実施(ドローンを活用)

環境面

**災害に強いまちづくりの実現と
豊かな自然・景観との共存**

【主な取組】

- 災害に強いまちづくりの実現
- 環境保全，地球温暖化対策の推進



倉敷市真備地区復興計画 5つの基本方針



倉敷COOL CHOICE
プロジェクト(H29～)



スマート水素ステーション
を設置(H29県内初)

三側面をつなぐ 統合的取組

多様な人材が活躍し、自然と共存する“持続可能な流域暮らし”の創造事業

“多様な人材の活躍”

①高梁川流域みらい人材創出プロジェクト

(高梁川流域課題解決人材創出事業) ※補助対象事業

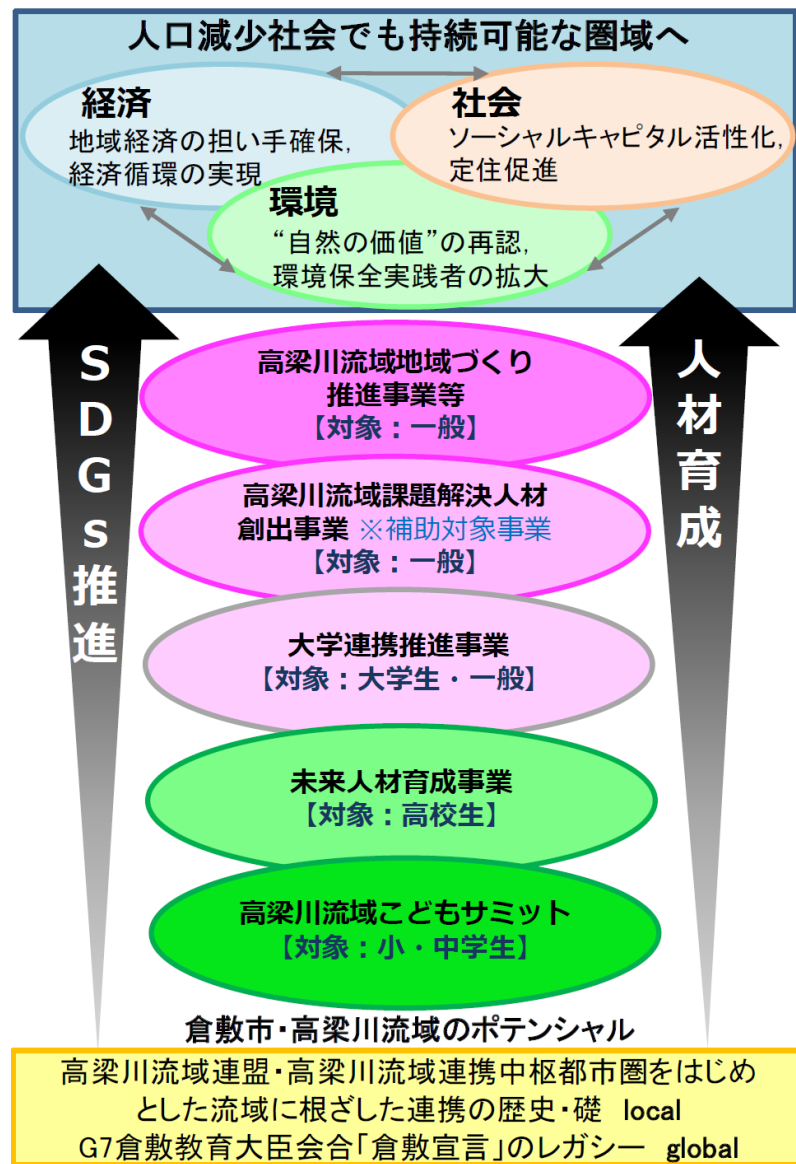
“自然との共存”

②人と人をつなぐ、データ活用による防災力強化事業 ※補助対象事業



① 高梁川流域みらい人材創出プロジェクト

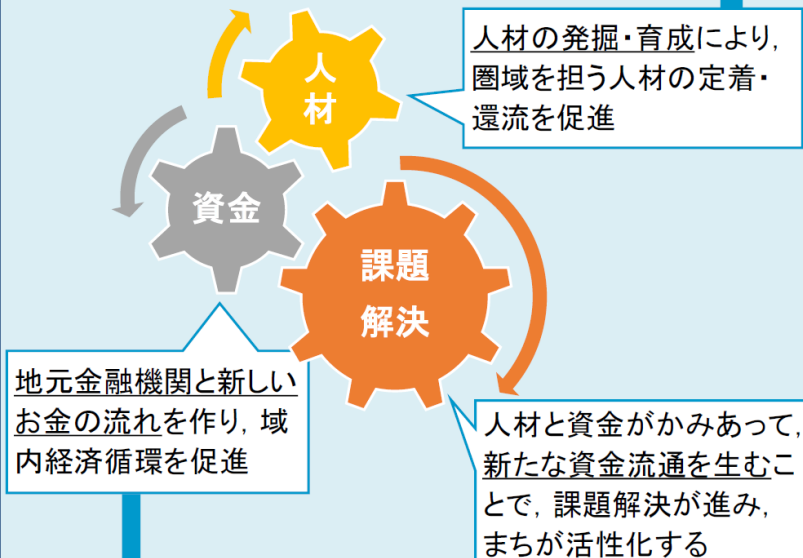
目的：幅広い世代・分野で、地域の課題や将来に関心を持ち、持続可能なまちづくりに取り組む人材を育成する
(テーマ：Think globally, act locally)



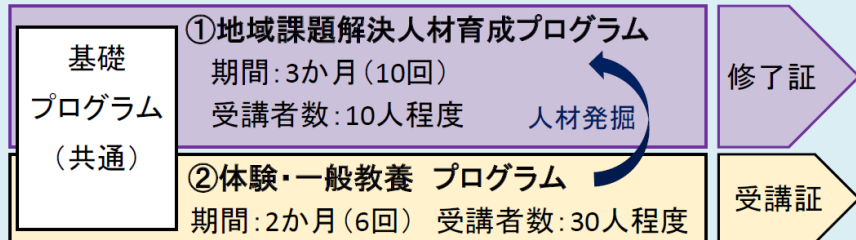
事業名	概要	主な連携団体
高梁川流域地域づくり推進事業／協働のまちづくり連携推進事業	圏域の共通課題について、効率的な解決方法の共有や新たなネットワーク構築に向け、研修・交流会の実施や、広域でのノウハウ移転・連携促進の取組へ支援を行う。	圏域でまちづくり活動等を行う団体・個人、圏域市町
高梁川流域課題解決人材創出事業 【自治体SDGs補助金対象事業】 ※詳細次ページ	流域の歴史や文化、地域課題解決の手法などを学習する単位制の教育プログラムを構築し、専門人材の育成を図る。 また、自律的好循環に向け、地元金融機関と連携し、金融人材の育成等に取り組む。	(一社)高梁川流域学校、地元金融機関、PS瀬戸内(株)、圏域市町
大学連携推進事業	圏域住民を対象に、市内11大学の教授等による講座(約30講座)に加え、大学生の課外学習の発表・ワークショップの場としても活用し、人材育成・地域への定着を図る。	市内11大学、圏域市町
未来人材育成事業	圏域の高校生が、金融機関・商工団体等と連携し、キャリア教育・アクティブラーニングなどに取り組み、地域の産業や社会に貢献する人材の育成を図る。	圏域の高校、地元金融機関、商工団体、圏域市町
高梁川流域こどもサミット	G7倉敷こどもサミット宣言をテーマに、小・中学生が意見交換を行う「倉敷こどもサミット」を開催。R2は、対象を圏域に拡大し、SDGsをテーマに開催し、より良い社会づくりに向けて考え、行動する若い世代の育成を図る。	圏域小・中学校、圏域市町(教育委員会)



1. 本事業による自律的好循環のイメージ



2. 課題解決人材の育成(本事業のメインフレーム)



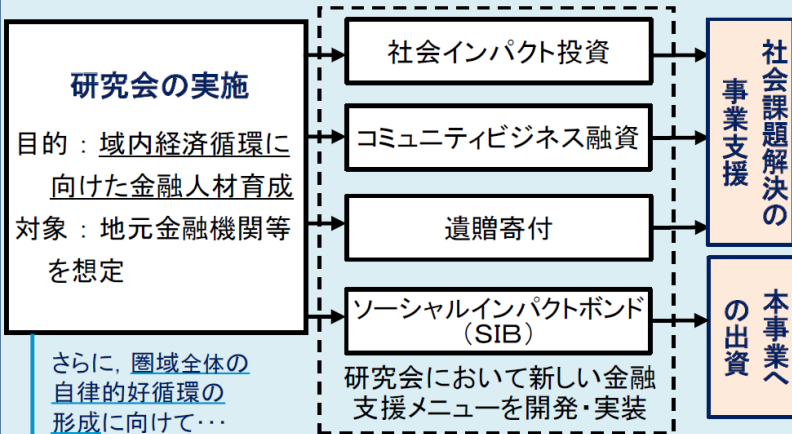
事業主体: 倉敷市・(一社)高梁川流域学校

事業内容: 圏域の各分野で活躍する同法人の人材等が講師となり、地域の理解、公共的視点、課題解決の手法等を体系的に学ぶ。

【地域課題解決人材プログラム】地域の課題解決を実践する社会事業家等を育成し、社会的・経済的効果の創出を図る。成果連動型委託(SIB)により実施。

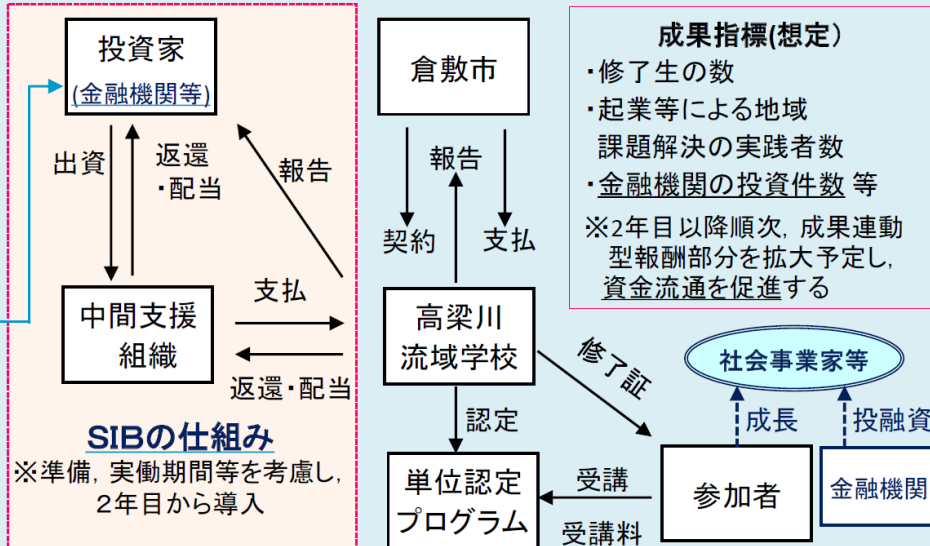
【体験・一般教養プログラム】郷土愛の醸成や地域課題の理解促進等を目的に実施。住民の地域への関心を高め、人材のすそ野を広げる。

3. 金融人材の育成(本事業のサブフレーム)



研究会の中で、自律的好循環の形成に向け、官民一体となった認証制度や投融資の枠組み(クラウドファンディング、利子補給)等の構築についても事業者、金融機関、行政等で協議・検討する。

4. 事業(地域課題解決人材育成プログラム)スキーム





■（一社）高梁川流域学校について

概要

平成27年3月の連携中枢都市圏の形成に合わせ、圏域内の企業や各種団体等により郷土愛の醸成と地域の将来を担う人材育成を目的に設立。同法人との連携により、郷土愛の醸成や地域の将来を担う人材育成等の事業を実施。

持続可能な圏域
とするため、
様々な取組を実施



備中志塾

地域の文化・芸能を学ぶ



高梁川環境保全

未来に豊かな自然を残す



高梁川トレイル

流域の豊かな自然を体感する



高梁川マルシェ

食・ものづくりの文化を発信する



水島コンビナートの進化

地域の産業・技術を知る



匠（先人）への聞き書き

先人の“知”を伝承する

次世代に
学ぶ機会を
創出する

未来を
創出する
仕事をする

先人に
学ぶ機会を
創出する

季節を
感じる
旬を味わう

自然を
楽しむ
多様性を
知る

【実績】 H27:11事業（延べ25回）参加者数： 761人
H28:10事業（延べ30回）参加者数： 637人
H29:13事業（延べ53回）参加者数： 1,988人
H30:13事業（延べ47回）参加者数： 1,068人
R1:13事業（延べ95回）参加者数： 2,728人

延べ参加者数：7,182人



事業構想塾

自然・資本を活かし事業を興す



備中no町家deクラス

伝統的な町並み・暮らしを守る



学生未来プランコンテスト

将来の地域人材を育成する



高梁川ミーティング

取組を流域内外に発信する

成果等

- 幅広い世代に、圏域の自然や歴史、文化・産業等について学ぶ機会を提供
- 本事業を通じ、圏域における地域団体・企業・大学等のネットワーク化が促進

第1期高梁川流域圏成長戦略ビジョンにおけるKPI

指標	基準値	実績値	目標値
高梁川流域学校での人材育成等のイベント参加者数	761人（H27）	7,182人（H27-R1） ★達成	5,000人（H27-R1）



域内に本社を置く4信用金庫において、『高梁川流域応援定期預金“高梁川の恵み”』を販売し、募集総額の一部を高梁川流域学校へ寄贈。



域内4信金と流域学校の包括協定締結式（H28.12）



②人と人をつなぐ，データ活用による防災力強化事業

平成30年7月豪雨災害

- 倉敷市真備地区被害状況
- ・1,200ha（地区の3割）が浸水
- ・亡くなられた方68名（災害関連死含む）
- ・全壊・大規模半壊5,750世帯



“誰一人取り残さない地域づくり”
災害の経験を活かした

倉敷市災害に強い地域をつくる検討会（R1年9月設置）

委員長：片田 敏孝 東京大学大学院特任教授

主な検討内容

- ・防災教育の推進
- ・地区防災計画の策定推進
- ・避難行動要支援者の避難対策の推進 等

住民の自主的な避難の促進，
全住民が避難できる仕組みの構築

蓄積したオープンデータを
“地域の防災力強化”へ活用

高梁川流域 data eye（H28年3月から運用）

圏域の様々なデータをWeb上に掲載し，利活用を推進
方針策定：倉敷市 実施者：（一社）データクレイドル
※ 地方創生推進交付金等を活用（H27-30）



平常時

住民 × 住民

データで地域の住民をつなぎ，
事前防災力を強化

- ✓ 地区防災計画の策定支援ツールとして活用
（現状，紙媒体では情報共有・加工などで多くの課題あり）
- ・浸水想定区域や避難所情報等のオープンデータを活用し，必要な情報を予め地図に落とし込むことが可能
- ・住民による危険箇所の画像取込や書込等の加工が可能
- ・住民間の情報共有が容易（紙，スマホなど閲覧方法自由）
- ✓ 防災意識とGISリテラシーを有する住民等の育成
- ・防災と地理情報システムのスキルを有し，地域の事前防災を推進する防災リーダーを養成する
- ✓ 今後，防災教育・BCPでの活用や，避難行動要支援者情報の反映などを検討・実施（R3以降）

防災マップ（地区防災計画）の作成 ※倉敷市を対象に開発し，高梁川流域圏に展開

自助 互助 共助 公助



平常時／災害時
ともに活用する

高梁川流域 防災 data eye の整備・運用

住民からの情報が
災害時に活かされる
防災オープンデータは
全国初！

平常時に，地域で
集めた情報を
災害時に活用！

災害時の情報を
地区防災計画等
に反映

災害時

被災者 × 支援者

データで被災者と支援者をつなぎ，
犠牲・被害を減らす円滑な支援

- ✓ 災害時（災害後の復旧期）には，必要な情報を一元化した「被災者支援ポータルサイト」として活用
- ・災害時は，被災者・支援者も投稿可能なポータルサイトとして情報を一元化
- ・被災者，支援者（ボランティア等）は，平常時に地域住民が集めた情報や現地の情報を共有し，犠牲者・被害を減らす行動をとる



- ・災害時に“まびケア”としてサイトを運用し，支援者等が活用。
- ・今年度も，災害時に被災地に入った支援者から要請を受け，館山市，長野市，宮城県でも同様のサイトを運用。
→ 適格な避難・支援のため，平常時の情報を活用する

- COG2018連携体制賞
- ハーバード大学特別イノベーション賞
- UDC2018データ部門金賞
- オープンガバメント推進協議会銅賞
- 総務省ICT地域活性化大賞 2020 優秀賞

「まびケア」等の取組
が評価され，国内外
の賞を受賞

オープンデータを活用し，災害に強いまちづくりを行う
「倉敷・高梁川流域圏モデル」を構築し，全国へ発信！

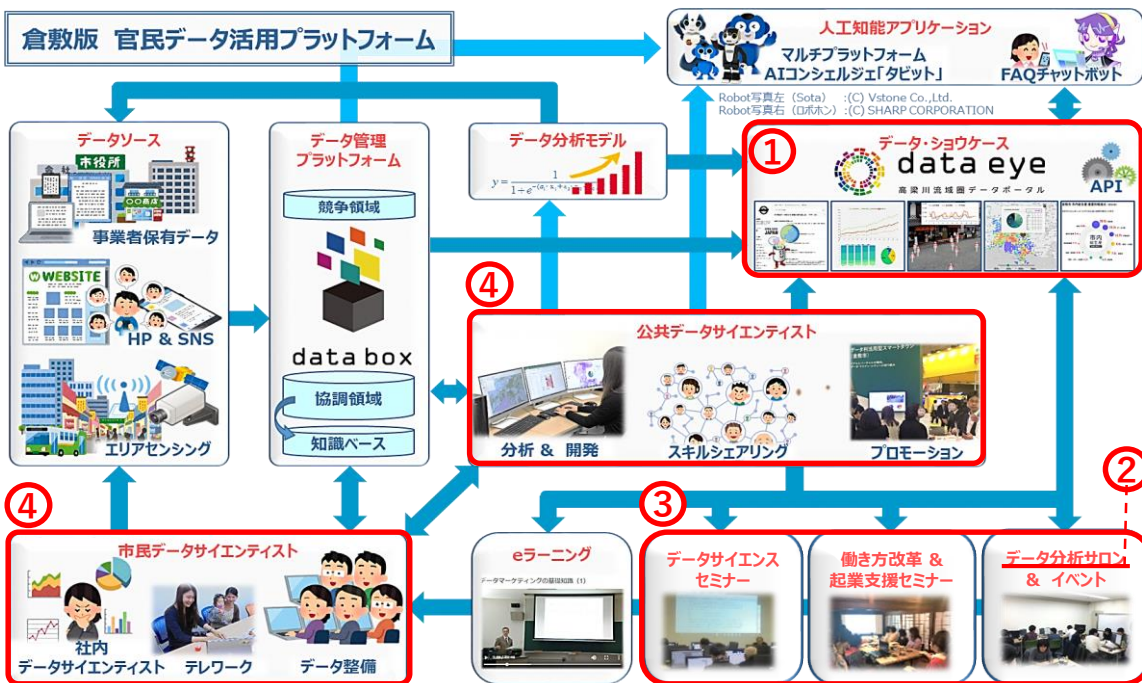


■（一社）データクレイドルについて

概要

圏域の情報通信業の発展のため、平成27年に地域メディア・IT企業等が共同で設立。官民連携により、「オープンデータ化の推進」「データ利活用の啓発」「人材育成」に向けた事業を実施。

事業全体の概要図 全体方針策定：倉敷市（7市3町）、事業推進主体：（一社）データクレイドル



①圏域データポータルサイト「data eye」の開設・運用 (H27-R1)
・圏域の様々なデータをWeb上に掲載し、利活用を促進する。

【実績】オープンデータ数：1,941件
ビジュアルコンテンツ*数：93件

*地域特性等を分析して可視化したデータ（学区別人口推計マップ等）

②データ分析サロン(JR倉敷駅前 西ビル7F)の運営 (H27-R1)
・企業、学生等のデータ利活用の場として設置。利用無料。

【実績】延べ利用実績：1,065人

③データサイエンスセミナー等、啓発イベントの実施 (H27-R1)
・データ利活用啓発・推進、人材育成等を目的に実施。

【実績】実施回数：72回 延べ参加者数：1,374人

④データサイエンティストの育成 (H27-R1)
・②③等の事業を通じ、データ集積・運用スキルを有しビジネス等に生かせる人材（データサイエンティスト）を育成。

【実績】データサイエンティスト育成数：46人

市民データサイエンティスト：統計や分析を専門としないが、既存のツールや手法を利用してデータ分析を行い問題解決に取り組む人材。
公共データサイエンティスト：特に公益性の高い分野において、課題解決・サービス提供に携わることを主眼としたデータサイエンティスト。

成果等

- ・多くの住民・学生等を対象にデータ利活用等の啓発を行い、専門人材を輩出
- ・本事業を通じ、域内での起業・企業誘致にもつながり、地域経済活性化に寄与

	指標	基準値	実績値	目標値
第1期高梁川流域圏成長戦略ビジョンにおけるKPI	ICT人材（データサイエンティスト）育成数	8人 (H27)	46人 (H27-R1) ★達成	18人 (H27-R1)
	データ利活用関連事業での起業数・誘致企業数	1件 (H27)	5件 (H27-R1) ★達成	5件 (H27-R1)

トピックス1

本事業は、総務省の「ICT地域活性化大賞2019」において奨励賞を受賞しました。

トピックス2

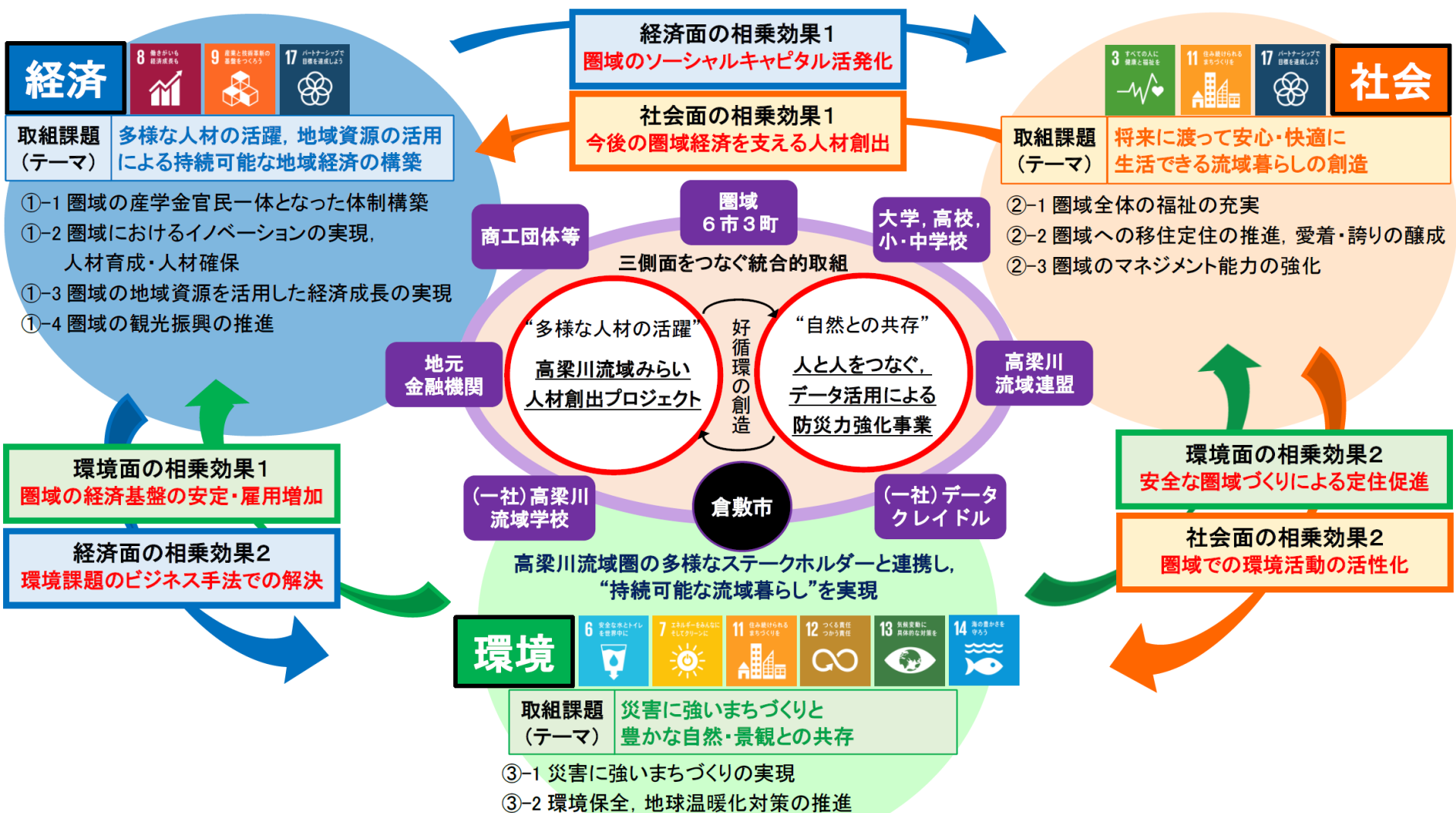
本事業を活用した倉敷商業高校が、政府主催の「地方創生政策アイデアコンテスト2019」で「地方創生担当大臣賞」を受賞しました。



所属/チーム名等 岡山県立倉敷商業高等学校



経済，社会，環境の各側面の相乗効果



多様な人材が活躍し，自然と共存する“持続可能な流域暮らし”の創造



自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

倉敷市・高梁川流域圏の ポテンシャル・強み

- 昭和29年の高梁川流域連盟の設立から地域に根付く持続可能で、多様性と包摂性のある圏域を実現しようとする「SDGsのDNA」
- 高梁川流域連携中枢都市圏の5年間の成果とともに得られた「高梁川流域を郷土」と想う様々なステークホルダーとのパートナーシップ

ポテンシャルの発揮

自治体SDGsモデル事業

- 経済・社会・環境など幅広い分野での都市間連携による取組の推進
- 郷土愛を醸成し、地域のために主体的に取り組む人材、金融人材の育成
- オープンデータを活かした地域住民の助け合いを後押しし、災害に強いまちづくりにつなげる取組

自治体SDGsモデル事業
の推進

自律的好循環の形成により…



我々の2030年のあるべき姿である

多様な人材が活躍し、将来に渡って安心・快適に生活できるまち
頻発・激甚化する自然災害に対し、誰一人取り残さないまち

の実現へ